

(様式 1)

自己評価票

【自己評価の意義・目的】

自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことにより、サービスの質の向上を図るシステムの1つです。

サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や第三者評価、苦情解決制度や権利擁護制度、さらには、アンケート調査等による利用者からの声の反映、オンブズマン機能などが相まって実施されることにより達成されるものです。

この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

記入年月日	平成 19 年 7 月 28 日									
法人名	医療法人 全人会									
代表者(理事長)名	谷本 眞穂									
介護保険事業所番号	2	7	7	2	8	0	0	5	2	6
サービスの種類	① 認知症対応型共同生活介護 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 ・ 介護予防認知症対応型共同生活介護 ・ 介護予防小規模多機能型居宅介護事業所									
事業所名称	グループホームソシアス此花春日出									
事業所所在地	大阪市此花区春日出北2 - 14 - 2									
記入担当者職・氏名	(職) 管理者		(氏名) 桂木 誠							
連絡先電話番号	06 - 6467 - 1771									

自己評価項目構成

・理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

・安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

・サービスの成果に関する項目

【自己評価の実施方法】

運営者(法人代表者等)の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。

「評価項目」ごとに評価をしてください。

その判断した理由や根拠のポイントを記入してください。

少なくとも、年に1回は自己評価を実施してください。

優れている点や改善すべき点などの特記事項についても、別途、記録しておいてください。

改善すべき事項については、改善のための計画(任意様式)を作成してください。

利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように、

利用申込者又はその家族に交付する重要事項説明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどし、評価結果を積極的に公表してください。

評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

(様式1)

自己評価票

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	五つの柱を元につくりあげている。		事業所内の3つのグループホームのリーダー・サブリーダー会議を通して再確認している。また、シンポジウムを通して理念を作り上げている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	五つの柱を元に日々取り組む努力をしている。		つくりあげた理念を元に職員一丸となり取り組んでいきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議を通して家族地域の人々に伝えている。		ホーム便りの検討、その中で伝えていったり、面会時に伝える。地域の人には行事の参加など促しながら伝えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶をしたり声を掛け合ったり、夏祭りなど参加を呼びかけたりしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩、商店街行事の参加、小学校の生涯学習に参加したり、保育園児、地域の踊り(月1回)が来られる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	見学に来られた家族様へ介護暮らしへの助言、グループ内健康フェアのお手伝い。直接地域へ向けて実施していない。		地域において認知症高齢者が暮らしやすくなるように、助言とアドバイス。認知症に関しての相談所のような所になるよう取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	良いところは更に良く、改善しないと行けないことに対しては、具体的改善策を講じている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告ぐらいで話し合いを今後していき、サービス向上に活かしていきたい。		定期的に行えるようにしていき、意見を聴き、サービス向上に活かせるようにしていきたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	以前安心サポートを利用、今後も必要に応じて利用していきたい。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	支援はしているが、職員については知らない人が多く、学ぶ機会がない。		職員が学ぶ機会をもてるようにしたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内ではなく、注意、防止に努めている。学ぶ機会がない。		職員が学ぶ機会を持ち、正しい知識を身に付け、防止に努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、管理者により説明をし、不安や疑問点など内容によってはリーダー、職員より補足し、理解、納得を図っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱の設置。日々のコミュニケーションの中から聞き取り、反映させる。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>日1度リーダーより手紙を書いたりしている。問題が起きたときには即連絡し、早く対応できるようにしている。職員の異動に関しては特に伝えていない。</p>	<p>ホーム便りの検討、その中に暮らしぶり行事、職員の移動も知らせられるようにしていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議において聞いたり面会に来られたとき、話をするようにし、その時に聞いた内容は反映させるようにしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフ会議において出た意見や日々業務で出た意見を反映し、内容によって上に上に上げるようにしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>前もって分かることについては、その調整、急なことについては、その時の状況に応じ調整している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者のかかわりが変わらないように普段より職員間で情報が行き渡るようにしている。なるべくダメージを防ぐ努力はしている。		
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者会議、リーダー・サブリーダー会議を通して、育成している。年2回研修報告会を開催し、個人から全体へ渡るようにしている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特にしていない。		地域と密着していくうえでも、今後ネットワークづくりをして行ければと思う。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎日来所時、管理者・職員の意見に耳を傾け、助言したりしている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月1回の朝礼時において、実績評価をしたり、向上心を持てる話をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に見学に来ていただき、実際に見ていただき、本人より聴くようにしている。見学に来られない方は、訪問し、そこで納得いくまで話を聞く。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学時、相談時、電話問い合わせ時に、しっかり聴くように、又、話しやすい雰囲気作りに努力している。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>見学・相談時を通して、その時の支援を見極めながら本人の様子・変化を逃さずご本人の「その時」に必要な支援が出来るように努めている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>無理強いすることなく、本人のペースの元、馴染めるよう職員間も情報の共有に努めている。また、必要であれば、家族様にも協力していただく。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>介護する、される関係でなく、共に時間を過ごしながら支え合う関係になれるように努力している。</p>	<p>入居者のためと思いながら職員の思いにならないように、申し送り時など伝えていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族様の要望には耳を傾けていき、時には助言をしたり、共に本人を支えていけるようにしている。		体調なども含め情報を伝えていきたい。また、行事参加なども促し、共に過ごしていただける時間を増やしていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会に来やすいホームづくり、必要に応じて本人や家族から話を伺い、より良い関係に努めている。		家族様の状況、事情に合わせた対応が出来るように本人を皆でよい形で支えていけるようにしたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会に関しては誰でも来ていただける雰囲気作り、場所については本人の状況に応じて、職員家族が連れて行く。		「～に行きたいわ」という本人の要望について本人の状況を考えながら家族と相談しながら実現していく。また、していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	その時の状況を見ながら必要に応じて間に入って円滑に進むようにしている。トラブルについては間に入り、拡大しないように努めている。		相性やトラブルになる状況を職員が共有し、極力少なくするよう配慮する。その人自身のことに対してはそれが発揮できる主役になる場を考えていきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了後もいつでも来所し、遊びに来ていただけるように伝えている。また、相談などあればいつでも対応している。		行事の参加の案内などを出したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ケアプラン作成時、また日常会話の中で本人の思いが聞けるようにかかわりを持っているコミュニケーションを大切に变化する思いも聞けるように努めている。</p>	<p>本人がありのままの思いを表せるようにしたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時の情報提供において、家族より具体的に聞くようにしている。また、事業所間でも必要に応じ情報提供している。</p>	<p>センター方式等のアセスメントツールを用いて、家族様の協力を得て生活歴等の情報を得られるように努める。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一日一日、一人一人に着目し、かかわりを持っている。職員間で申し送り等情報交換を行い、多目的に一人一人を観られるようにしている。</p>	<p>本人の力について関わる職員間で情報を共有し、最大限に発揮できるように支援してゆく。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>プラン作成時、本人、家族に意向の確認を行っている。アイデアについては、職員間で意見交換を行っている。また、カンファレンスを行い、情報交換を行っている。</p>	<p>家族や関係者と連絡を取り、本人の気づきにくい部分のサポートを行い、本人らしさが自然と出せるプラン作成を行いたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的なカンファレンスを行っている。又、身体状況等変化のあったときは皆を塩行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人毎、日毎管理で介護記録を記入している。職員が記録を見ることにより、情報を得ている。また、申し送りも毎日行っている。</p>		<p>記録類の充実を図りたい。シンプルで効果的な記録簿の作成。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療との連携。グループ内での介護タクシーの利用等</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>地域小学校での生涯学習への参加。図書館の利用。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>現在特になし</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>現在特にしていないが、ボランティアの依頼などを行っている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による往診。必要に応じて総合病院への紹介。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医による治療、毎日往診来られるので、相談はいつでも出来る。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に2日看護師による健康管理を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族様と話し、助言を行ったり、見舞い時に病院関係者と情報交換、相談するようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	面会時などに話をしたりしている程度で、話し合っているところまでしていない。		入所時より本人の希望を聴くこと。状態に応じて全員で話し合い、家族、本人の希望に添える終末期にしていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	チームとしての支援に取り組んでいきたい。		職員がもっと勉強すること、主治医と共により良く利用者が日々暮らせるように検討していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	家族との協議により理解を得て、経過的に観察、 報告を行っている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	接遇について事業所内で研修を行っている。		人権を尊重
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	職員の思いの押しつけにならないよう指導し、本 人の思いや希望が表せる働きかけをするよう にしている。		認知症を更に学び、一人一人に応じた暮らしの支 援が出来るようにしていきたい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	職員のペースではなく、入居者一人一人のペース に合わせた希望に沿った支援になるようにしてい る。		希望に沿うにはどうすればいいのかを考えるよう にしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで けるように支援し、理容・美容は本人の望 む店に行けるように努めている	希望があれば、本人の望む理容・美容店に行っ ていただいている。本人の着たい服を着ていただ いたり、一緒に選んだりしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ほぼ毎日片付けを手伝ってくださる。また、おやつ等職員と共に買い物に出かけている。		入居者の方々の出来る力を発揮し、食事作り等への参加の機会を作る。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ホームでは制限はなく、本人の希望に添えるように支援している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の状態に合わせ、リハビリパンツの使用を中止し、布パンツを使用している。トイレでの排泄を希望されれば、二人介助であってもトイレへ誘導している。		羞恥心に配慮し、安全で安楽に排泄できている援助を行いたい。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	無理強いせず、声かけを行い入浴していただいている。個人により入浴時間も自由であり、入りたいときに入らせていただいている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	プランにも記載し、個人により休みたいときに休めるように援助している。		積極的に休憩を取り、その後の活動につながる援助を行いたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味の活動や家事動作等、その人の得意なこと、好きなことが行えるように支援している。		一人一人の得意なことや好きなことを探り、生活の中で充実感、達成感が感じられるように援助を行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者は自己管理で金銭を持っていただいている。散歩の時等、外出に買い物をしている。		金銭トラブルの予防
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々、商店街や公園までは散歩に出ている。しかし、一人一人の希望の確認は行えていない。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年1回の遠足や喫茶店などに行っている。		温泉や外出など個別の希望に対応していきたい。また、法事や結婚式なども希望があれば、添えるようにしていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やFAXを利用し、家族とのやりとりが行えている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも誰でも訪問していただいてもいいことは伝えている。来所時には本人様との時間を大切にさせていただき、また、来ていただけるように心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束はない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はほとんどかけない。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は見守りと所在の確認。夜間は定期的に様子観察を行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の状態に応じて支援しながら使用していただいている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	カンファレンスで話し合い、ケアプラン内容に記載し、個別に見守りの支援や環境整備を行っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命講習を行っている。		急変時の対応などをもっと行っていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練（入居者・職員）を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		<p>食前、食後、臨時薬、塗り薬、目薬など職員一人一人がもっと意識を持ち、服薬できるようにしていきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		<p>専門職による口腔ケアの研修等を受け、職員個々の知識と技術の向上を図りたい。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種をしたり、対応の取り決めを行っている。また、それに似た症状が現れた場合、速やかに対応、実行するようにしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫を過信せず、食材管理に努めている。台所は定期的な害虫駆除、調理用具については消毒をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	フローアークラはいつも整えられ、親しみやすく入りやすい雰囲気であるよう努力している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に制作物や写真を貼り、その時のことを話題に語られるようにしている。テーブルには季節の花を置き、季節感が感じられるように配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にラグを敷き、座れるように机を置いて、そこで思い思いに過ごせるようにしている。一人になれる空間作りは工夫が必要である。		共用空間作りは入居者の様子を見ながら今後より過ごしやすいようにしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている		居室環境に個人差があるので、家族と連携し、以 前の環境等も参考にしたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	夏・冬問わず、室温の管理、調整には注意を払っ ている。換気も行い、閉めきりにならないよう に援助している。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手すりがつけられている。歩行訓練、車いすや歩 行器が通りやすいよう整理整頓に努めている。	
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	「トイレ」の表示や居室前に自分の写真を貼った り、理解しやすいように工夫している。	
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	屋上を利用し、ユニット合同でラジオ体操をして いる。	家庭菜園等、現在も行っているが、職員と共に入 居者が一緒に動作できるようにしたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/> 大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない <input type="checkbox"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="checkbox"/> 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人一人の入居者を大切にする介護、その人がその人らしく暮らせるようにご本人、家族様が安心していただけるよう取り組んでいます。
また、2Fだけでなく、グループホーム此花春日出として、朝のラジオ体操や日曜日の合同レクリエーション遠足など、2F・3F全体の取り組みもしています。地域行事の参加も積極的にし、地域に根ざしていけたらと思っています。